様式第３号(第１２条関係)

開　催　記　録

名　　称	令和８年度第１回吉川市下水道事業審議会
開　催　日　時	令和８年８月４日(火)　午後　２時００分から 午後　３時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所　３０３会議室
出席委員氏名	菊池委員、小山委員、飯島委員、辻委員、阿部委員、篠田委員、山本委員、森田委員、笠井委員、小林委員
欠席委員氏名	
担当課職員職氏名	中原市長 荒川都市建設部長　堀江副部長兼河川下水道課長 齊藤下水道担当副主幹　小木曽下水道担当主査、松本主任
会議次第と会議の公開又は非公開の別	次第：別添参照 公開
傍聴者の数	
非公開の理由	
資料の名称	別添参照
開催記録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	阿部委員、山本委員
その他の必要事項	
内　　容	■開会 ■議事 ○令和７年度吉川市下水道事業決算について 事務局より令和７年度吉川市下水道事業決算について説明 【質疑応答】 飯島委員：企業債残高対事業規模比率が増加している理由について伺いたい。 事 務 局：企業債残高対事業規模比率については、吉川美南駅東口土地区画整理事業に伴う下水道管布設工事のボリュームが増加

	しているため、建設改良費の財源として増加している。 飯島委員：国庫補助金は計画どおり交付されているのか。 事 務 局：近年は要望どおり交付されない状況が続いており、不足分については企業債の発行で補っている。 飯島委員：吉川美南駅東口土地区画整理事業に伴う下水道管布設工事の今後の見通しを伺いたい。 事 務 局：令和９年度完了を目標に事業を進めているところである。 飯島委員：吉川美南駅東口では戸建て住宅の建設が進んでいるが、今後の排水量の見通しについて伺いたい。戸建て住宅が増えれば使用料も増加し、経営も安定していくと思うが如何か。 事 務 局：区画整理事業は終盤に差し掛かっており、宅地の開発も盛んになってきている。これを受けて、下水道使用料も増加していくものと考えている。 飯島委員：下水道使用料が増加していくことを踏まえると、経営戦略で示した使用料改定時期がずれ込むことも考えられるのか。 事 務 局：経営戦略における推計は、吉川美南駅東口の開発による使用料収入の増加を見込んだものとなっている。今後の使用料の増加も加味した中でも、使用料改定が必要であるとのまとめになっている。 菊池会長：全国的な傾向としては、土地区画整理事業を実施したとしても、市内転居が多いため、思ったほどの人口増加は見込めないことが多い。さらに新築住宅は節水住宅であるため、水を多く使用する古い住宅から節水住宅へ移住することで、大規模住宅団地が出来ても、使用料収入が減少していくこともある。 開発による使用料収入の動向を注視して、使用料改定を進めていくことが必要であるが、想定よりも使用料が伸びない状況から、使用料改定を予定どおり又は前倒しで進めている事例が多い。 小山委員：八潮市で発生した道路陥没事故を受けて緊急点検を実施されていたが、現状はどのような状況か。 事 務 局：事故を受けて行われた全国特別重点調査については、対象が管径が２メートル以上かつ設置から３０年以上経過した管渠であったため、吉川市内で対象となるものはなかったが、職員によるマンホール点検や道路の表面上のへこみ等を調査し、管に損傷がないことを確認している。また、今後も継続して調査を行っていくことが必要であることから、毎年数

	回、職員による点検を実施している。 飯島委員：一般会計当初予算において、都市計画税の充当先の１つとして、下水道事業会計負担金及び下水道事業会計出資金が挙げられているが、下水道事業会計決算では、歳入としてどこに含まれているのか。 事 務 局：都市計画税の充当状況については、一般会計側で使途の明示を行っているため、企業会計側で詳細を把握していないが、下水道事業決算における収入のうち、雨水処理負担金や一般会計負担金、一般会計出資金等に充当されているものであると考えている。 ○令和７年度吉川市農業集落排水事業決算について 事務局より令和７年度吉川市農業集落排水事業決算について説明 【質疑応答】 菊池会長：農業集落排水事業決算書の中の損益計算書を見ると、営業費用に対して営業収益は１０分の１程度しかなく、不足分は全て一般会計の繰入金で賄っている。農業集落排水事業は受益者が特定される事業であるにもかかわらず、収入の多くを農業集落排水施設を使用していない人の税金で負担している状況である。このまま何もしなければ、施設の老朽化に伴う更新投資によって、費用や企業債残高は増加していく一方で、使用料収入はさらに減少し、一般会計の負担は増えていくことが見込まれる。 このような状況は、道路整備などの公共事業と変わりがなく、根本的な解決に向けて議論を進めていく必要がある。 ○経営戦略の進捗状況について 事務局より吉川市下水道事業経営戦略の進捗状況及び吉川市農業集落排水事業経営戦略の進捗状況について説明 【質疑応答】 笠井委員：農業集落排水事業の廃止については、説明会やアンケート調査を実施していただいたことで、各家庭でも事業の状況について、少しずつ理解し始めている状況である。使用者全体と

	ては、反対する方は少なく、「仕方がないもの」として受け止められているように感じる。 一方で、八子新田や鍋小路は敷地面積が広い家が多いのに対し、八五町会については住宅が密集していることから、合併浄化槽を設置する場所に不安を感じている方が多い。そのため、地域によって合併浄化槽への転換に対する受け止め方に違いが生じているものであると考えている。 鍋小路と八子新田で比べてみても、鍋小路については浄化槽の設置場所等について個別に話を進めていきたいと考えている人が多いのに対し、八子新田はもう少し説明してほしいと考える人が多いように思う。今後については、自治会長と相談いただきながら、地域ごとに進めていただくのが良いのではないかと考えている。 なお、鍋小路については、他の地域に先んじて工事を進めても良いという意見も出ている状況であり、鍋小路が動き出すことで他の地域へのインセンティブになるのではないかと思っている。 菊池会長：合併浄化槽への転換事例は、全国的にもまだ少ない状況であるが、国も浄化槽転換に舵を切りはじめており、１０年後には、浄化槽への転換に議論が進んで行くことは間違いない状況である。 吉川市においては、接続時の経緯などから、様々な厳しい意見が出ているところであるが、子どもや孫の世代へ負担を残して良いのか、という点も含めて丁寧に説明をしていただき、良い方向に進んで行けばと思う。 吉川市の規模で転換が進めば、全国でも先進的な事例になる。国の最先端の事業を行っているということも踏まえて、事業を進めて頂ければと思う。 辻　委員：農業集落排水事業の説明会について、対象者世帯や参加された人数を教えていただきたい。 事 務 局：説明会の対象世帯は１３１世帯である。５月１０日の説明会では、八子新田・鍋小路・八五町会の３自治会の合同で実施をし、５月３１日と７月２６日については八五町会を対象に実施をした。参加者は全体で６割程度ある。欠席者については、後日、個別説明の実施や資料の配布を行い、アンケートの依頼もさせていただいたところである。

	■その他 今後のスケジュールを事務局より説明。 次回：令和９年２月頃を予定。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和８年９月２日

署名委員　阿部　義行（自署）　　署名委員　山本　博暉（自署）